



はらじゅくかわら版

独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センターの理念

私たちは、患者さまの人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける**患者様中心の医療**を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供すると共に、関係医療機関と密接な連携をもつ**地域完結型医療**を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者様がより良い医療が受けられ、**地域で選ばれる病院**になるべく日々努力していきます。



横浜医療センター公開空地の櫻

第32号 目次

院長就任挨拶	1
就任挨拶	2
東日本大震災の災害派遣を経験して	3
行事紹介	4
看護学校 卒業式・そして入学式	
研究会開催のお知らせ	
新採用医師挨拶	5
医師の人事異動	6
編集後記	
外来担当医表	7



発行 月：平成23年4月
 発行 行：独立行政法人国立病院機構
 横浜医療センター 広報委員会
 発行責任者：工藤 一大
 住 所：横浜市戸塚区原宿3-60-2
 電 話：045-851-2621
 FAX : 045-851-3902
 URL : <http://www.hosp.go.jp/~yokoham/>



当院携帯サイトはこちらから

院長就任挨拶

3月11日発生した、東北地方太平洋沖地震で被災された皆様にお見舞い申し上げますと共に、亡くなられた皆様のご冥福を祈り、親しいご家族・ご友人を亡くされた皆様に哀悼の意を捧げます。また、被災された地域の日も早い復興をお祈り申し上げます。



また、3月14日からの計画停電の際には、患者の皆様、ご家族の皆様にはご迷惑、ご不便をおかけしたことをお詫び申し上げます。幸いにも3月25日から

病院長 工藤 一大

は計画停電から除外され通常の診療体制となりました。

今回の地震津波による被災地に、当院からも医療援護班を派遣しました。3月14日には放射線技師と事務を一名ずつ福島に、医師一名、看護師2名、事務1名を仙台に派遣しました。現在は横浜市からの要請により1チームを派遣できる体制を準備しております。

さて私は2011年4月1日をもって当院病院長を拝命いたしました。前高橋俊毅病院長が医療・経営面で築きあげてこられた医療センターを更に発展させ、安定させていくという責任の大きさに身震いする思いではありますが、職員一同と協力し精一杯努力、精進してまいりたいと考えております。どうか地域の住民の方々、病院、診療所の皆様にも、これまで以上のご協力をお願いいたしたく、よろしく願いいたします。

2010年は、新築になった病院への引っ越し作業、同時進行で始まった電子カルテへの移行で大忙しでしたが、この難局を職員の努力と協力で無事乗り切りました。また、7月からは日本病院評価機構の病院機能評価ver.6受審に向けて準備を開始し、日常業務多忙の中病院職員の努力により2011年3月の審査を見事に乗り切ることができました。地域の診療所、病院からの紹介率も80%近く、紹介患者数は前年度の約35%増となりました。

当センターは平成22年4月から横浜市南西部地域中核病院に認定され、救急救命センター、NICU・GUC、地域周産期母子センターの本格的に稼働してきました。これらの機能を含め病院全体の機能向上のため、そしてより一層の医療の質、安全の向上を目指し今年度は新たに看護師が98名の新採用、医師7名増員などがなされました。医師、看護師以外の職種における人手不足は深刻な問題ですが、これらの充実にも努力していきたいと考えております。全職員数も増加し大きな組織となりますので、職員間のコミュニケーション改善がより一層大事となります。患者の皆様からの声を集める「患者ご意見箱」からは、職員への感謝・激励もあります。改善を求める声が多く寄せられます。コミュニケーション不足が原因と考えられるご意見も多く、これらには真摯に反省、サービス改善に努め、より良い病院をともに作り上げていきたいと思っております。今後も建設的なご意見をどしどしお寄せください。

当院の理念であります「患者中心の医療」、「地域完結型医療」、「地域で選ばれる病院」をこれまでも目指して努力してまいりましたが、これからも一層努力し、地域の関係医療機関や行政とも密に連携して「医療の質と安全」の向上に積極的に取り組んでまいります。今後も当センターへのご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

就 任 挨 拶

平成23年4月1日に副院長に就任させていただきました。よろしくお願いいたします。

平成13年3月に着任しましたので当院での勤務はちょうど丸10年になりました。十年一昔といいますが当院がこの10年で大きく変化したことを実感しています。職員数は大きく増加し、医療機器は次々に更新され、診療機能は大きく向上しました。昨年には新病院が完成し、救急診療も強化でき、一段と飛躍できたと思います。これも地域の皆様のご支援とご協力によるものです。ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。



副院長 宇治原 誠

大震災で大変な時です。度重なる余震、停電、原発の問題などで、地域の皆様には体調がすぐれない方や健康に不安をお持ちになっている方がいらっしゃると思います。一方でご親戚のある当地に避難されている被災者の方もいらっしゃいます。我々は被災地への医療応援活動も行っておりますが、この横浜戸塚の地で普段の医療を地道に行うことも我が国の復興に貢献することであると私は信じています。職員とともにがんばります。

- 看護は「smile」と「harmony」 -

私は当院に平成23年4月1日着任いたしました。

横浜は前勤務地より気候が穏やかで、着任当日は病院敷地内や大正団地の桜に迎えられ緊張が少しほぐれたように感じました。私のモットーは「smile（笑顔）」と「harmony（和）」です。病院は職員と当院を利用される皆さまとの間で、常に何らかの人間関係が生じています。その関係の緩衝材が「smile」と「harmony」と思っています。辛い時や困難な時も笑顔で、一人ではないと常に言い聞かせ仲間を信じて毎日を暮らす、いたって単純です。



看護部長 山口 克子

看護部門は4月に98名の新採用者が加わり、若いエネルギーが充ちあふれ、職場が活気づいています。看護職員は病院職員の約60%を占めています。この大所帯が病院の印象を左右するカギを担っています。私たちが皆さまとの間に信頼関係を築き、その信頼関係に基づいて看護を提供することができるように、新採用者の教育・指導を行っています。プリセター(新採用者の指導担当者)の支援の下、新採用者は日々一つひとつの看護技術を丁寧に確認しながら夜間の看護状況等を見学しています。新採用者の成長が敷地内の若木が成長していくように育つことを信じて、看護部門が一体となり看護の質の保証に努力していきます。看護部の理念である“私たちは常に「患者さん中心」を念頭において、温かい笑顔で心のこもった看護を提供します”を忘れずに日々の看護ケアを実践していきたいと思っております。

東日本大震災の災害派遣を経験して

外科医師 行田 悠

3月11日に発生した東日本大震災の医療ボランティアとして医師1名、看護師2名、事務1名のチームの一人として3月14日から3月17日まで仙台医療センターに派遣されました。被災地の混乱を目の当たりにして今回の震災の壮絶さを実感させられました。

現地ではトリアージや救急外来の手伝いを中心とした業務を大阪、神戸など他病院から派遣された医療チームとローテーションを組んで行いました。

完全に機能を取り戻していない上に慣れない病院で初めて出会うスタッフと限られた資源で医療を行うことは予想以上に困難でした。

今回の派遣で経験させていただいた災害医療という貴重な体験とその反省を今後の診療に活かしていきたいと思えます。



業績評価係長 大島 剛俊

3月14日から17日まで福島県に行ってきましたので、そのご報告をさせていただきます。

今回の災害は地震・津波による一次被害と原発事故による二次被害にわけられます。福島県の沿岸部は浜通りと呼ばれ最近ではニュースでもよく聞く単語になっています。ここは津波でも被害を被りましたが、それ以上に原発事故による影響が大きいところです。大勢の方が避難所で不便な生活を送っておられます。放出される放射線は目に見えない上に、殆どの方は放射線に対する知識を持ち合わせているわけではないことが不安を大きくしています。

私たちはスクリーニングと呼ばれる作業に従事しました。住民の方がどれくらい放射線に被曝したのか、ガイガーカウンターという機器を使って調べます。調査当時は刻々と深刻化する事故のニュースが報道され続ける中で住民の方の不安も非常に大きく、場所によっては二千人以上の方が調査に殺到されるほどでした。当時は健康に影響があるような汚染はほぼないと言ってよいくらいの結果でしたが、それでも雨に打たれると不安なので調査して欲しいと何度も足を運ばれる方も多くいらっしゃいました。

今も放射線汚染の拡大がニュースにならない日はありませんが、調査結果は検査された方の現在までの安全をステイメントするだけです。

今後もこうした活動を継続出来ればと思えますし、それ以外でも、少しでも被災者のお役に立てるようなことを私たちなりに取り組んでいきたいと思っています。



行事紹介

看護学校 卒業式・そして入学式

横浜医療センター附属
横浜看護学校教育主事 梶原 順子

穏やかな日射しの中、平成23年3月4日に看護学生66名が多くの皆様に支えられて、卒業しました。横浜医療センターをはじめとして、国立病院機構の病院には約85%の卒業生が就職します。大きな期待と少しの不安を抱えながら、笑顔で巣立っていきました。開校以来、今春の卒業生を加えると1,731名の卒業生が全国で活躍していることとなります。これからは、当校での学びを基盤に、それぞれの場所で看護職としての自覚と責任をもって成長していくことを願っております。今後とも、見守っていただけるようお願いいたします。

平成23年度は新カリキュラムがスタートして3年目となります。平成23年4月7日(木)に看護学生78名が入学しました。当校は、大型校になって5年目を迎えました。全学年あわせると247名の学生が看護を学んでいます。新カリキュラムでは、新たに統合分野が設置されました。統合分野は、学んだ知識・技術を統合し、臨床現場の実務に即した看護を実践できる能力を養うことを目的としております。看護実践者の育成をめざして、学生とともに歩んでいきます。どうぞ、よろしくようお願いいたします。



横浜医療センター研究会開催のお知らせ

横浜藤沢消化器疾患研究会

開催日時 / 奇数月第2月曜日 午後7時~
開催場所 / 当院大会議室
連絡先 / 小松臨床研究部長・松島消化器科部長
045-851-2621 (代)

研究会にご興味をお持ちの先生は、どなたでも参加を歓迎いたしますので、ご連絡下さい。



新採用医師挨拶

4月を迎え多くの新人職員を迎えました。代表して新採用医師にご挨拶、抱負などを語っていただきました。



小児科医師
福山 綾子

初めまして。4月より当院小児科レジデントとして赴任しました福山綾子です。
しかしながら、私がこの病院で勤務するのは6年ぶりで、それ以前に4年間働いていました。今回は当院NICUのベビー達を主に担当することになっているので、当時診察していた患者さんとお会いできることはあまりないと思いますが、見かけたら気軽にお声をかけて下さい。とは言え、昨年4月からの新築オープンにより、当時の面影はまったくなく、桜の木だけが懐かしく思えます。そして、システム上はすべて電子カルテとなり、この年で慣れるのに四苦八苦している状況です。子育てのため、他院で外来診療のみを行っていましたが、再びこの病院で勉強し直すために戻ってまいりました。よろしくお願いいたします。



呼吸器外科医師
石川 善啓

2011年4月より呼吸器外科に赴任しました石川善啓と申します。2001年横浜市立大学医学部を卒業、2003年横浜市立大学第1外科 外科治療学 入局、外科領域を総合的に修練し、現在は呼吸器外科に力を入れております。本年3月まで神奈川県立がんセンターで3年間、肺癌の外科治療を中心に化学療法、画像診断、病理診断について勉強してまいりました。今後は呼吸器外科領域の疾患に幅広く対応してゆきたいと考えておりますが、特に肺癌、縦隔腫瘍については化学療法も含め包括的な診療を目指してゆく所存ですので、まだまだ勉強不足ではありますがよろしくお願いいたします。



救命科医師
内倉 淑男

今年度から横浜医療センター救急科で勤務することとなった内倉と申します。
私は、横浜市の出身で、当院は近くに親族が住んでいることもあり、とても親近感のある病院でした。自分がこのような素晴らしい施設を備えた病院で勤務させて頂けることをとても光栄に思っております
私が勤務する救急科は、多くの患者さまが受診され、中には緊急を要する状態の方もいらっしゃいます。患者さまご本人はもちろん、家族の方も強い不安を感じていらっしゃるが多いと思います。私どもは、病気の治療をすることは当然ですが、それに伴う不安感も軽減することができればと考えて診療にあたっております。
私自身はまだ未熟で、医師としてだけでなく、一人の人間としても成長過程だと思っております。医学の面だけでなく、人間としての成長のために、日々の勉学に励み、横浜医療センターの一員として地域の方々に少しでも貢献できれば幸いです。小さなことでも、皆様からのご指導頂ければと思います。よろしくお願いいたします。

医師の人事異動

発令年月日	発令	職名	氏名	発令年月日	発令	職名	氏名
23.4.1	採用	麻酔科部長	小出 康弘	23.3.31	退職	救急科医師	矢澤 利枝
23.4.1	採用	麻酔科医長	菊地 龍明	23.3.31	退職	救急科医師	土屋 智徳
23.4.1	採用	麻酔科医師	大木 浩	23.3.31	退職	糖尿病内分泌内科医師	野本 文子
23.4.1	採用	麻酔科医師	林 路子	23.3.31	退職	糖尿病内分泌内科医師	日比 朝子
23.4.1	採用	麻酔科医師	田中 宏幸	23.3.31	退職	神経内科医師	上木 英人
23.4.1	採用	脳神経外科医師	向原 茂雄	23.3.31	退職	神経内科医師	室橋 洋子
23.4.1	採用	脳神経外科医師	瓜生 康浩	23.3.31	退職	麻酔科医師	坂井 加奈恵
23.4.1	採用	脳神経外科医師	田中 悠介	23.3.31	退職	麻酔科医師	佐藤 玲利
23.4.1	採用	脳神経外科医師	久保田 純一	23.3.31	退職	麻酔科医師	嶋志田 直子
23.4.1	採用	呼吸器外科医師	石川 善啓	23.3.31	退職	外科医師	南 裕太
23.4.1	採用	外科医師	嶋田 和博	23.3.31	退職	外科医師	佐藤 渉
23.4.1	採用	外科医師	後藤 晃紀	23.3.31	退職	外科医師	一万田 充洋
23.4.1	採用	外科医師	森 康一	23.3.31	退職	外科医師	中山 岳龍
23.4.1	採用	外科医師	堀井 伸利	23.3.31	退職	外科医師	原田 真吾
23.4.1	採用	呼吸器内科医師	塩原 康正	23.3.31	退職	小児科医師	小郷 寛史
23.4.1	採用	整形外科医師	門脇 絢弘	23.3.31	退職	小児科医師	塩谷 裕美
23.4.1	採用	整形外科医師	橋本 政敏	23.3.31	退職	小児科医師	増田 由香
23.4.1	採用	整形外科医師	杉元 紳太郎	23.3.31	退職	小児科医師	及川 茂輝
23.4.1	採用	循環器科医師	服部 英敏	23.3.31	退職	精神科医師	佐倉 義久
23.4.1	採用	循環器科医師	大槻 尚男	23.3.31	退職	精神科医師	川崎 いくみ
23.4.1	採用	救急科医師	大川 卓巳	23.3.31	退職	呼吸器内科医師	濱 雅文
23.4.1	採用	救急科医師	内倉 淑男	23.3.31	退職	呼吸器外科医師	椎野 王久
23.4.1	採用	小児科医師	村田 宗紀	23.3.31	退職	皮膚科医師	谷口 友則
23.4.1	採用	小児科医師	鈴木 剛	23.3.31	退職	整形外科医師	小林 洋介
23.4.1	採用	小児科医師	檜佐 香織	23.3.31	退職	整形外科医師	亀井 千裕
23.4.1	採用	小児科医師	河合 駿	23.3.31	退職	整形外科医師	守谷 亜希子
23.4.1	採用	小児科医師	神垣 佑	23.3.31	退職	産婦人科医師	和氣 清美
23.4.1	採用	小児科医師	福山 綾子	23.3.31	退職	脳神経外科医師	畑岡 峻介
23.4.1	採用	精神科医師	山口 和己	23.3.31	退職	腎臓内科医師	山口 勇人
23.4.1	採用	精神科医師	安藤 豪	23.3.31	退職	臨床研修医	柏倉 麻里
23.4.1	採用	皮膚科医師	片山 智恵子	23.3.31	退職	臨床研修医	西 悠里
23.4.1	採用	産婦人科医師	石川 貴久	23.3.31	退職	臨床研修医	森 真理子
23.4.1	採用	神経内科医師	中村 治子	23.3.31	退職	臨床研修医	川端 雄一
23.4.1	採用	神経内科医師	菅原 恵梨子	23.3.31	退職	臨床研修医	橋口 俊太
23.4.1	採用	腎臓内科医師	岡田 瑠奈	23.3.31	退職	臨床研修医	藤井 徹朗
23.4.1	採用	歯科口腔外科医師	赤津 千絵	23.3.31	退職	臨床研修医	小西 裕美
23.4.1	採用	臨床研修医	鈴木 幸二	23.3.31	退職	臨床研修医	山内 麻衣
23.4.1	採用	臨床研修医	山多 芙美				
23.4.1	採用	臨床研修医	渡邊 順哉				
23.4.1	採用	臨床研修医	杉山 智子				
23.4.1	採用	臨床研修医	朴 峻				
23.4.1	採用	臨床研修医	山崎 真弓				
23.4.1	採用	臨床研修医	山本 悠史				
23.4.1	採用	臨床研修医	服部 純治				
23.4.1	採用	臨床研修医	畠山 慎也				
23.4.1	採用	臨床研修医	清水 洋				



編集後記

新年度となり、新生横浜医療センターも一年を迎えました。今年の桜は、震災もあり例年とは違い、どこか物悲しくも感じられました。しかし、新たに当センターにも職員約150名迎えることとなり、新たな気持ちで取り組んで行こうと思います。

がんばろう日本!!



Table with columns for Department (診療科), Day (曜日), and Doctor (医師). Rows are categorized by service type: 外来受付A, 外来受付B, 外来受付C, 外来受付D, and 専門外来. Includes various medical specialties like Pediatrics, Internal Medicine, Surgery, etc.

初診受付: 平日 8:30~10:00
再診(予約外)受付: 平日 8:30~10:00
休診日: 土曜・日曜日・祝日・12月29日~1月3日
地域医療連携室(脳ドック受付)(TEL 045-853-2331)

急患は随時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621)
紹介状又は、診療情報提供書をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示下さい。
地域医療連携室 TEL 045-853-8355 (月~金 8:30~17:00)
TEL 045-851-2621 (時間外、土・日・祝日)
FAX 045-853-8356

お知らせ 色つき部分が変わ箇所となります。ご確認の上受診ください。

(写真右)

戸塚は江戸時代には東海道の宿場として栄えており、旅籠の数も小田原に次ぐ所で江戸より10里、小田原まで10里と中間点にあるため、江戸を朝立ちして戸塚で泊まり翌朝小田原に向かって出発するので大変賑わった町でした。

又、現在の戸塚消防署とスルガ銀行戸塚支店の間は大商店が立ち並び、旅籠や遊廊等が点在していました。

